



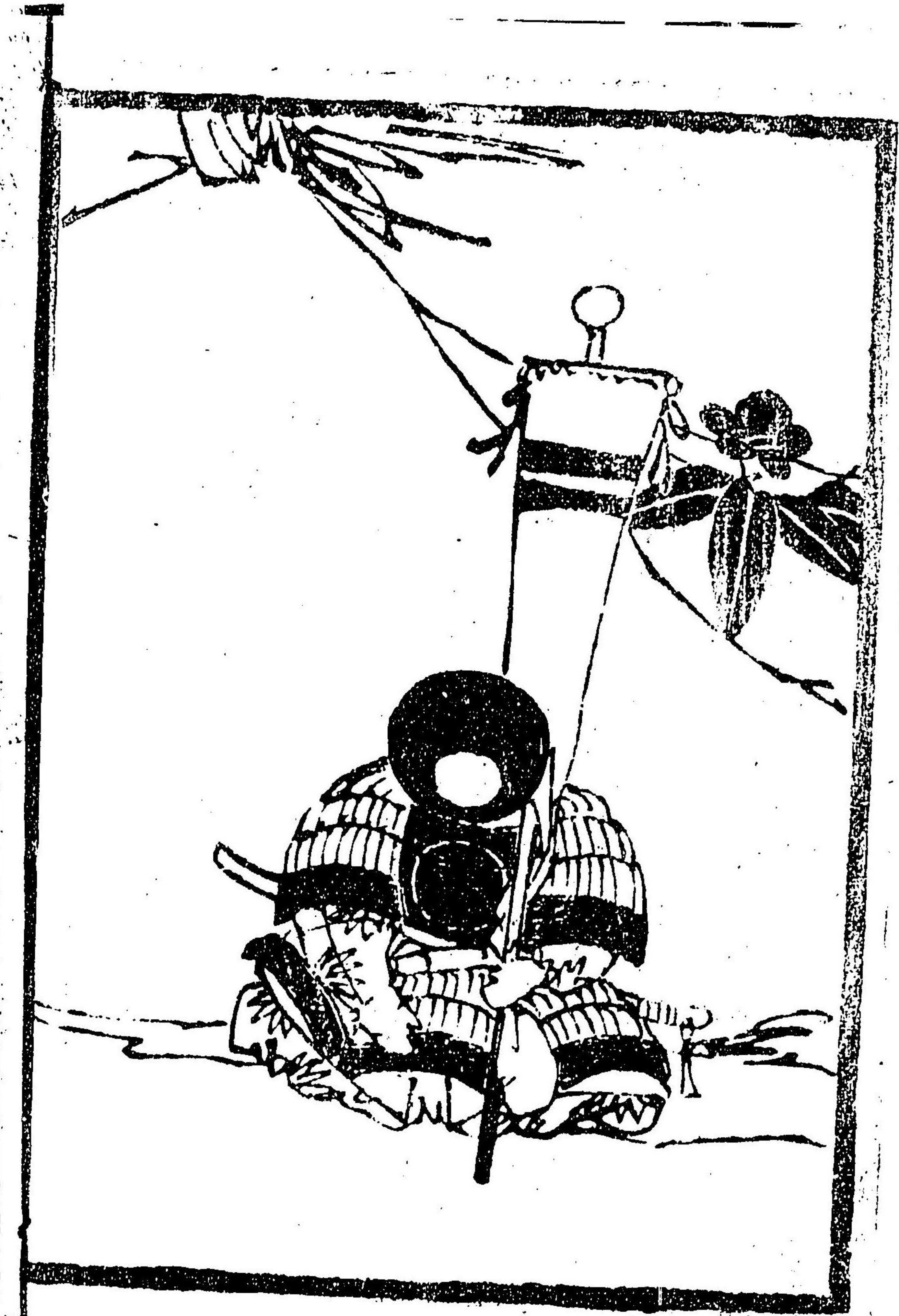
93.

加藤清正一代記 全

山口 梓

山崎 謙

特423935







青
E





九列
熊永
熊永城
後国
神と崇め一進一昔

国牧村の城主加藤武
者所始めて武家とい
り数代を経て家七ひ
子孫尾張国愛知郡

中村に隠きて
居たりしが福
孫森之助ある
もの千時十六
才ありけるが
元服して清忠
と名号しが智勇
衆小勝水後一子を
産虎之助呼木下
藤吉郎とて養

虎之助



智勇衆
小勝水
後一子
を産
虎之助
呼木下
藤吉郎
とて養

村上大九郎



木村又藏



の水論
も鎮め勝々
功あり茲に大カ
又兵三金剛兵工我
慢太郎といふ三人の
剛勇あり共々武
者修行して虎之助ウ
僅う十二才の智勇に感一委
々頼みて臣とも

虎之助

青
三



加藤の家
老飯田覚兵衛
工是あり大力
の知己は鬼九助
といふりのあり
しう推挙して虎
之助の臣とき是
鳥井半助あり千
時秀吉江州長
濱の城主より虎
之助を元服させ
て清正と名のり
せ其手をとりめ
は境足久兵衛の
狼籍の役を命
せられたり斯て



二八
喧嘩あり
争せしを仁
義を以てされし
ふいめ商人は金子と手へ
しより商人とも其思を感
ト姓名を名乗る三人ハ木
村又蔵といひ一人ハ井上大九
郎とい夫九郎ハ即時臣と
あり木村ハ老母を見送り
て後ハ仕あづき約をおしま
りけるがごとく母も没しけ
れハ再び来りて臣とあるおる
は織田信長上洛ありて將軍
義昭を憎護をといへと足利家
の威おとろへて武威ハ織田家



歸一近
國の諸

将あり

まゝひき従

女中越前

の浅倉義景

加藤清正

帰せぬ

木の芽峠

を初と

うねが奇手

筒う茶等

一岩を築

き防戦

の準備

加増とな

見たり又

姉川の戦ひ

い清正奮

服阪甚内

飯田寛共工馬

より引落

て生捕ける秀

吉江州横山

の城主あり

大将信長の御

奇一年始出

たる苗守を見

まゝ浅井

長政横山の城を

長政横山の城を

信長

木下討て加藤

手筒のとうてを

攻ける小兼て討

り一更なる鏡

奇の城將朝倉景恒

軍勢をせし手筒を

援之とせらあ

木下討て加藤

番衆を為して三

田奇弥三郎を討取

たり是時清正

三田村の激戦

主従いその丹

波守を討取し働

三田奇弥三郎



加藤清正

攻ること
最も急あり
竹中半工能く
これを防げり
秀吉様ももんと
これに防げり



中にも清正先
松も劣駈出
横山へ兼竹
を救ひし同
関波路守
郎が三笠
あり是と攻
んと秀吉
討

四王天但馬守



又裁制して
云や此政
攻
目と
南方
ハ防禦
綾一彼
方より
夜討を掛

新納武藏守
是ハ尼ヶ崎の
普請と見え
中より明
智の勇將
但馬守



破るべしと云は然らば夜
討せんとて攻手
を退き日の暮
待て清正は
七騎南方へ向
城兵ハ鉄砲を
トキの
打ちければ清正
此戦は眉間高取
トキを
けると其後山口を
攻る時清正
先を進んで飯田
井上木村鶴等諸
手を掛て城門を格揚櫓を
取て城門を突破りまなく間々城を陥
續て

加藤清正
山路將監を討取
高尾を新納

武蔵の守を討取り勇猛の二子余部を討つるものなり
大岡朝解征

鋒として
其首名
異国
高



長十六年
六月廿四日卒
家康の

印刷者ト京三九七但松原ノ甲ノ廣田三郎
治世
吉太郎